

大学教職員に今、何が求められるのか

徳島大学総合科学部
山口裕之

講演者略歴

- 1999年東京大学人文社会系研究科単位取得退学。2002年博士(文学)取得。
- 主要著書
 - 『「大学改革」という病』(明石書店)
 - 『人をつなぐ対話の技術』(日本実業出版社)
 - 『コピペと言われないレポートの書き方教室』(新曜社)
 - 『ひとは生命をどのように理解してきたか』(講談社)
 - 『認知哲学 心と脳のエピステモロジー』(新曜社)
 - 『人間科学の哲学』(勁草書房)
 - 『コンディヤックの思想』(勁草書房)など。

概要

- 政府主導で「大学改革」が急激に進められている。
 - 予算の競争的配分が推し進められた結果、研究費の一部大学・研究者への集中、評価関係書類の作成業務による多忙化、通常予算の削減による教員後任補充の困難化、若手研究者の非正規化などが進み、大学は疲弊している。
- そうした状況にあって大学人はどうすべきかを考える。
 - もちろん、政府の施策への批判的視点は重要だが、他方で、大学人にも反省すべき点、取り組むべき点はあるのではないか。
 - たとえば、これまで大学人は、専門職・研究職になるわけでもない学部卒で就職していく学生に、いったいどのような知識や技能を身につけさせるべきなのか、深く考えてこなかったのではなかろうか。
 - 私見を交えた講演の後、パネリストやフロアとの討議によって理解を深め、大学人の間での合意形成を進めたい。

大学の存在意義

- 政府・財界:産業の役に立つ研究・仕事の役に立つ教育研究を行う。
 - 大学人側は、そうした主張に対して説得的な反論ができていない。
- 私の主張:民主的な社会を支える市民の育成。
 - 「民主主義とは、すべての国民が賢くなければならないという無茶苦茶を要求する制度。その無茶苦茶を実現するために大学は存在している。」
 - 対立する意見に感情的にならず、根拠にもとづいて合意を形成する能力。
 - 昨今の政治家の言動は、「戦後教育の失敗」の実例。

★しかし、民主主義とは？

民主主義は多数決ではない

- 近代民主主義の思想＝社会契約論
 - ホッブズ、ロック、ルソーら。
 - 民主主義:共同してよく生きるための制度。
 - 国家権力の正当性:基本的人権の保障。
 - 多数決:「基本的人権(みんなのためになること)」が何かを判断するための(欠陥の多い)手段の一つ。
- 詳しくは、『人をつなぐ対話の技術』を参照。

多数決でうまくいく場合

- 各人が平均して50%を超える確率で正解が出せる課題。(コンドルセの定理)

うまくいかない場合:上記以外。

- その課題に関する知識がない場合
- どうでもよいことの場合

→「何でも国民投票」は危険。

- 感情や政治家の人気で決まる。
- 「多数派の専制」になる。

代議制民主主義の代表の資質

- 「ある人が、公正な討議の場で自分の能力を大衆に向かって示してみせたとき、大衆は、たいていの場合、本能的にその人が有能な人間だと見分けることができる」(J.S.ミル『代議制統治論』)
 - ＝有能な人間かどうかは多数決で決めることができる。
- － 代議制民主主義とは、自分たちよりも対話の能力に優れた人々を選んで、理性的な対話により合理的な結論を出してもらうこと。
- － 選挙で選ばれた代表に全権委任するわけではない。

大学で何を教えるべきか

- 政治家を含む大部分の国民が大学に進学する時代(全入時代＝ユニヴァーサル段階)。
 - － 「**理性的な対話による合意形成の技術**」＝「**正しく考える技術**」。
 - あることがらについて、多面的な情報や意見を集め、比較検討し、自分の意見を根拠づけて主張すること: 学術研究の基本。
 - とくに、自分と反対の立場を取りあげて検討することが必要。
 - － **自分の頭で考える≠自分の頭の中から何かを取り出す。**

「倫理教育」(≡説教)は無意味

- 「教育は大切だ」
 - (ちょっと)教育すれば、何でもできるようになる。
 - (ちょっと)教育すれば、何でもさせられる。
- 安易な「**〇〇教育**」の強要。
 - 中身は、たいていの場合「説教」。
 - **前提が、両方ウソ。**
- 何かができるようになるためには、
 - － 自分なりの理解。
 - － 理解にもとづいた目的設定と、目的に対して合理的な手段の計画。
 - － 反復練習。
 - **教員は、これらを手助けする立場。**

たとえば、「コピペの蔓延」に対して

- 倫理教育(≡説教)しても無意味。
 - － 原因は、学生の「**倫理観が低いこと**」ではなく、**コピペと引用の違いを理解していないこと**。
- 「コピペと引用の違い」を具体的に説明し、理解させようとして、引用を活用した作文を反復練習させることが必要。
 - － 引用を活用した作文＝「**対話による合意形成**」を一人で実践すること。
 - － 加えて、発表や討論の機会も持つ: 対話の実践。
 - － 詳しくは『コピペと言われないレポートの書き方教室』を参照。

大学人の連帯の必要性

- 「ユニヴァーサル段階」(全入時代)における大学の役割:
 - － 「企業に役立つ教育」に代えて、「**民主的社会を支えるために役立つ教育**」という理念を。
 - － そのために、「**正しく考える技術**」「**理性的に対話する技術**」の教育を。
 - これは、文理共に学術研究の基礎ともなる。
 - － **多くの大学人が連帯して、大学の役割についての理念を実践し、社会に理解を求めるべき。**